

2024年度新任教員研修プログラム・講座概要

講座名	「TPとは何か」(共同化)		
【領域】	5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発		
形式	講義と演習(対面)		
時間	90分		
実施形態		開催日時	
<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	5月20日(月) 18:15~19:45 ソラティオスクエア4階TNec041教室		/
講師	安岡 高志(高等教育研究)		
到達目標	1. 教員自身の自己改善・キャリア開発とFDの関連を理解できる。(5-1-2対応) 2. 学生や教育プログラムの実態、社会の状況、自らの教育活動を統合的に振り返り、改善できる。(5-2-1対応) 3. FDの機会を積極的に活用するとともに その効果について振り返り、今後に生かそうとする。(5-2-2対応)		
事前学習課題	事前に送付された「ポートフォリオ(教育理念)モデル」を一読し、「Teaching 観(Teaching Philosophies)に関する記述の評価指針」(外部からの参加者の方は「本学の研修において推奨する掲載事項リスト」)のどの部分に該当するかを、「コメントの挿入」の形で書き込み、持参してください。		
講座の流れ 分			
セッション1	①自己紹介 ・参加者全員で、これまでの教育歴や担当している授業などについて、簡単な自己紹介を行います。 ②研修の趣旨説明 ・ティーチング・ポートフォリオ研修の流れと修了に関する説明を行います。		20
セッション2	③TPの基礎についての講義 ・TPとはなにか、TPの効果と作成の意義、TPの組織的導入、TPの作成に向けた準備について、講師から簡単な情報共有を行います。		30
セッション3	④事前課題についての意見交換(グループワーク) ・互いの事前課題を紹介します。 ・疑問点の共有を通して、今後執筆するティーチング・ポートフォリオについての理解を深めます。		30
事後学習課題	・振り返りシートの記入と事後アンケートの入力		
参考文献	土持ゲリー法『ポートフォリオが日本の大学を変える～ティーチング/ラーニング/アカデミック・ポートフォリオの活用』、東信堂、2011 D.J. Schönwetter, L. Sokal, M. Friesen, and K. L. Taylor, "Teaching Philosophies Reconsidered: A Conceptual Model for the Development and Evaluation of Teaching Philosophy Statements," The International Journal for Academic Development, Volume 7, Number 1, May 2002		

2024年度新任教員研修プログラム・講座概要

講座名	「自身のTeaching Philosophyの分析」(表出化)	
【領域】	5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発	
形式	講義と演習(対面)	
時間	90分	
実施形態		開催日時
<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	6月3日(月) 18:15~19:45 ソラティオスクエア4階TNec041教室	
講師	安岡 高志(高等教育研究)	
到達目標	1.教員自身の自己改善・キャリア開発とFDの関連を理解できる。(5-1-2対応) 2.学生や教育プログラムの実態、社会の状況、自らの教育活動を統合的に振り返り、改善できる。(5-2-1対応) 3.FDの機会を積極的に活用するとともに その効果について振り返り、今後に生かそうとする。(5-2-2対応)	
事前学習課題	自身が担当している授業のシラバスを印刷し、持参してください。	
講座の流れ 分		
セッション1	①Teaching Philosophyとは何か ・Teaching Philosophyの基礎知識について概説します。 ・これから取り組む課題について、説明を行います。	30
セッション2	②自身のTeaching Philosophyの分析 ・シラバスにもとづき、自身が教育において重視していることと実際に授業で取り組んでいることとを、付箋とワークシートを用いて整理します。	15
セッション3	③意見交換(ペアワーク) ・お互いの作業内容の共有を通して、今後のTeaching Philosophyの執筆方針を固めます。	40
事後学習課題	振り返りシートの作成と事後アンケートの記入	5
参考文献	土持ゲーリー法『ポートフォリオが日本の大学を変える～ティーチング/ラーニング/アカデミック・ポートフォリオの活用』、東信堂、2011 D.J. Schönwetter, L. Sokal, M. Friesen, and K. L. Taylor, "Teaching Philosophies Reconsidered: A Conceptual Model for the Development and Evaluation of Teaching Philosophy Statements," The International Journal for Academic Development, Volume 7, Number 1, May 2002	

2024年度新任教員研修プログラム・講座概要

講座名	「TPを共有する①」(連結化)	
【領域】	5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発	
形式	講義と演習(対面)	
時間	90分	
実施形態		開催日時
<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	6月17日(月) 18:15~19:45 ソラティオスクエア4階TNec041教室	
講師	安岡 高志(高等教育研究)	
到達目標	1.教員自身の自己改善・キャリア開発とFDの関連を理解できる。(5-1-2対応) 2.学生や教育プログラムの実態、社会の状況、自らの教育活動を統合的に振り返り、改善できる。(5-2-1対応) 3.EDの機会を積極的に活用するとともに その効果について振り返り、今後に生かそうとする。(5-2-2対応)	
事前学習課題	・前回の作業内容をもとに、自身のTeaching Philosophyを執筆し、持参してください。	
講座の流れ		分
セッション1	①Teaching Philosophyの交換と分析(グループワーク) ・グループメンバーが執筆したTeaching Philosophyに互いに目を通し、「Teaching 観(Teaching Philosophies)に関する記述の評価指針」をもとに記述内容を整理します。	40
セッション2	②Teaching Philosophyの紹介(グループワーク) ・自身のTeaching Philosophyの内容について、グループメンバーに説明をします。 ・囚ENTERを交え、今後さらに追記できそうな内容について、議論を行います。	20
セッション3	③意見交換 ・各グループにおける議論の内容について報告しあい、意見交換を行います。	25
事後学習課題	振り返りシートの作成と事後アンケートの記入(内面化)	5
参考文献	土持ゲーリー法『ポートフォリオが日本の大学を変える～ティーチング/ラーニング/アカデミック・ポートフォリオの活用』、東信堂、2011 D.J. Schönwetter, L. Sokal, M. Friesen, and K. L. Taylor, “Teaching Philosophies Reconsidered: A Conceptual Model for the Development and Evaluation of Teaching Philosophy Statements,” The International Journal for Academic Development, Volume 7, Number 1, May 2002	

2024年度新任教員研修プログラム・講座概要

講座名	「TPを共有する②」(内面化)	
【領域】	5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発	
形式	講義・ディスカッション(対面)、演習(事前学習課題)	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	7月8日(月) 18:15~19:45 ソラティオスクエア4階TNec041教室	/
講師	安岡 高志 (高等教育研究)	
到達目標	1.教員自身の自己改善・キャリア開発とFDの関連を理解できる。(5-1-2対応) 2.学生や教育プログラムの実態、社会の状況、自らの教育活動を統合的に振り返り、改善できる。(5-2-1対応) 3.FDの機会を積極的に活用するとともに その効果について振り返り、今後に生かそうとする。(5-2-2対応)	
事前学習課題	1.教員自身の自己改善・キャリア開発とFDの関連を理解できる。(5-1-2対応) 2.学生や教育プログラムの実態、社会の状況、自らの教育活動を統合的に振り返り、改善できる。(5-2-1対応) 3.FDの機会を積極的に活用するとともに その効果について振り返り、今後に生かそうとする。(5-2-2対応)	
講座の流れ		分
セッション1	①Teaching Philosophyの紹介(グループワーク) ・自身のTeaching Philosophyの内容について、前回からの加筆・修正のポイントをグループメンバーに説明します。 ・メンターを交え、今後さらに追記できそうな内容について、議論を行います。	20
セッション2	②意見交換 ・各グループにおける議論の内容について報告しあい、意見交換を行います。	30
セッション3	③今後の進め方、日程調整 ・個別メンタリングの進め方について説明を行い、メンターと日程調整を行います。 ※外部からの参加者には個別メンタリングは行いませんのでご了承ください。	20
事後学習課題	振り返りシートの作成と事後アンケートの記入(表出化・内面化)	10
参考文献	土持ゲーリー法『ポートフォリオが日本の大学を変える～ティーチング/ラーニング/アカデミック・ポートフォリオの活用』、東信堂、2011 D.J. Schönwetter, L. Sokal, M. Friesen, and K. L. Taylor, "Teaching Philosophies Reconsidered: A Conceptual Model for the Development and Evaluation of Teaching Philosophy Statements," The International Journal for Academic Development, Volume 7, Number 1, May 2002	